

竹中 烈 (Takeshi TAKENAKA)

学位：修士（教育学）

略歴：京都大学大学院教育学研究科博士前期（修士）課程修了

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程指導認定退学

京都大学教育学研究科研修員

専門分野：教育社会学、感情社会学

研究課題：日本における公教育とオルタナティブ教育との関係性

不登校生の居場所にみられる場の特殊性の検討

【論文】

- ・「拡張する教育空間における民間事業者の位置 — セーフティネットとしてのフリースクールに着目して」（『日本教育政策学会年報』第29号、2022年、武井哲郎・矢野良晃・橋本あかね・竹中烈・宋美蘭による共著）
- ・「ソーシャルベンチャーによる官民協働の不登校生の居場所づくりの特質 — <界>における関与者間の関係構造の変容に着目して —」（『教育支援協働学研究』vol.3、2021年）
- ・「精神医療技法としてのオープンダイアログの可能性 — 不登校支援への適用可能性という視点から —」（『愛知文教大学比較文化研究』第16号、2021年）
- ・「不登校支援に対する学校教員の意識 — 教育相談における困りごと事例の分析を通して —」（『愛知文教大学論叢』第22巻、2019年）
- ・「ソーシャルベンチャーの思想 — 不登校支援の市場化、もしくは新しい協働を見据えて —」（『愛知文教大学比較文化研究』第14号、2018年）
- ・「後期近代社会におけるフリースクール運動 — 「教育機会確保法」の成立に着目して —」（『愛知文教大学論叢』第20巻、2017年）
- ・伊藤潔志編著『哲学する教育原理』（「4-1 子どもの発見」部分（保育出版社、2017年3月）
- ・「生徒指導における教師-生徒間の信頼という概念の検討」（『教育研究』7号、2017年）
- ・「フリースクールにおけるスタッフ・子ども・親の『感情統制の三極関係』 — 『FS的自己』としての親を起点として —」（『人間関係学研究』第21巻第1号、2016年）
- ・「インクルーシブな共生社会に向けた統合と包摂のせめぎあい — 公教育制度にフリースクールは位置づけられるのか —」（『教育と医学』第64巻7号、2016年）
- ・「不登校生の居場所ネットワーク設立者の実践及び教育思想に関する一考察 — 奥地圭子・八杉晴実・宮澤保夫の自著を手掛かりとして —」（『教育研究』6号、2016年）
- ・「SNSに見る子どもの対人コミュニケーションについての一考察 — チャムグループ化する仲間集団、共依存症的な対人関係 —」（『チャイルドサイエンス』12号、2016年）
- ・「変化する『居場所』、多様化する『居場所』 — 新たな学校のあり方を考える —」（『児童心理』2月

号増刊、2016年)

- ・「インクルーシブ教育システムの中で求められる教師の専門性に関する一考察 — 不登校の子を持つ保護者の声を通して —」(『愛知文教大学論叢』18巻、2015年)
- ・「不登校経験者へのメッセージとしての多様なライフストーリー — Fonte に連載された著名人インタビューを手がかりに」(『教育・社会・文化』14号、2013年)
- ・「フリースクールにおける学習支援 — 学習支援ニーズの高まりと居場所づくり —」(『教育・社会・文化』13号、2012年)
- ・「フリースクールにおける相互行為にみるスタッフの感情管理戦略」(『フォーラム現代社会学』11号、2012年)
- ・「不登校支援現場に見る感情労働 — 専門性が求められる不登校生の居場所に着目し —」(『京都大学教育学研究科紀要』57号、2011年)

【その他】

- ・「地方都市における学校外の不登校生の居場所の官民協働に関する一考察 — 中間支援組織という概念を糸口に —」(日本教育社会学会第73回大会口頭発表、2021年)
- ・「学校教員がもつ学校外の居場所に関する意識について」(日本教育社会学会第71回大会口頭発表、2019年)
- ・「フリースクール的な価値を基にした不登校支援の実際 — ソーシャルベンチャーNPO 団体が運営する教育支援センターを事例として」(日本教育社会学会第70回大会口頭発表、2018年)
- ・「オルタナティブな学びの場のネットワーク論的考察 — 不登校生の居場所としてのフリースクールを中心として —」(日本教育社会学会第68回大会口頭発表、2016年)
- ・『繋がり』を考える — 特別の教科としての道徳を見据えて —」(愛知文教大学教職センター通信23、2016年)
- ・「親の会を通してみるフリースクールの感情統制構造 — 感情統制の三極関係を下敷きに —」(関西社会学会第66回大会口頭発表、2015年)
- ・「不登校生の親のフリースクール運営への参与過程 — 親の会の盛り上がりと意識変容を通して —」(日本教育社会学会第66回大会口頭発表、2014年)
- ・「不登校経験者へのメッセージとしての多様なライフストーリー — Fonte に連載された著名人インタビューを手がかりに」(Children, Education, and Youth in Imperial Japan 1925-1945, verbal presentation, 2014)
- ・「フリースクールにおける学習指導偏重化とその背景」(日本教育社会学会第65回大会口頭発表、2013年)
- ・「フリースクールにおける学習支援」(日本教育社会学会第64回大会口頭発表、2012年)
- ・「フリースクールの公教育化」(日本教育社会学会第63回大会口頭発表、2011年)
- ・時事通信出版主催学内講座「教育原理」担当(2015年～、名古屋学芸大学・大阪大谷大学・愛知淑

徳大学・京都外国語大学等にて)

【社会活動】

- ・教員免許状更新講習における講座担当(必修科目「授業づくり・学校づくりに活かす教育の最新事情」を一部担当、選択科目「不登校問題を見据えた学校・学校外の居場所の来し方行く末」を主担当)(2020年8月5日、6日)
- ・「自己肯定感と子どもの育ち」(尾張旭市思春期家庭教育講座 [前期]、2019年6月12日)
- ・「子供の自己肯定感はどのように育まれるのか」(愛知文教大学公開講座、2018年1月18日)
- ・外語学院アドバンスアカデミーにて愛知文教大学体験講義(2017年1月24日)
- ・「基本の話 ― 学校ってなんだろう」(愛知文教大学公開講座、2015年11月19日)
- ・一般財団法人こまき市民文化財団理事(2020年4月1日～)
- ・小牧市社会教育委員(会長)(2019年4月1日～)
- ※小牧市生涯学習審議会委員および小牧市公民館公民館運営審議会委員を兼務(2016年4月1日～)
- ※小牧市教育振興基本計画推進会議委員を兼務(2020年4月1日～)
- ・小牧市国際交流協会委員(2018年4月1日～2019年3月31日)
- ・小牧市市民活動促進委員会委員(2017年4月1日～)
- ・小牧市社会教育委員(副会長)(2016年4月1日～2019年3月31日)

【研究資金獲得状況】

- ・2018–2020年度科学研究費助成事業若手研究(B)「学校外の不登校生の居場所に関する知識が学校教員の不登校指導に与える影響」(課題番号18K13098、研究代表者)
- ・2020–2022年度科学研究費助成事業基盤研究(C)「オルタナティブ教育の中間支援組織に関する横断的・縦断的研究」(課題番号20K02440、研究分担者)
- ・2020年度児童少年の健全育成実践的研究助成(1年助成)「非営利型民間フリースクールの経営戦略に関する開発的研究」(共同研究者)
- ・2021–2024年度科学研究費助成事業基盤研究(C)「オルタナティブ教育における教育内容の質保証を見据えた官民協働モデルの開発的研究」(課題番号21K02288、研究代表者)